

静岡県袋井市

「ECサイトの構築を通じた地域産品の高付加価値化等」

実施団体: 静岡県袋井市、(株)大和コンピューター、慶應義塾大学、神奈川工科大学、JA遠州中央 等

- **地域産品の直接販売を行うECサイト「ふくろいeねっと」を構築し、メロンをはじめとする地域産品の販路拡大、高付加価値化を実現。**

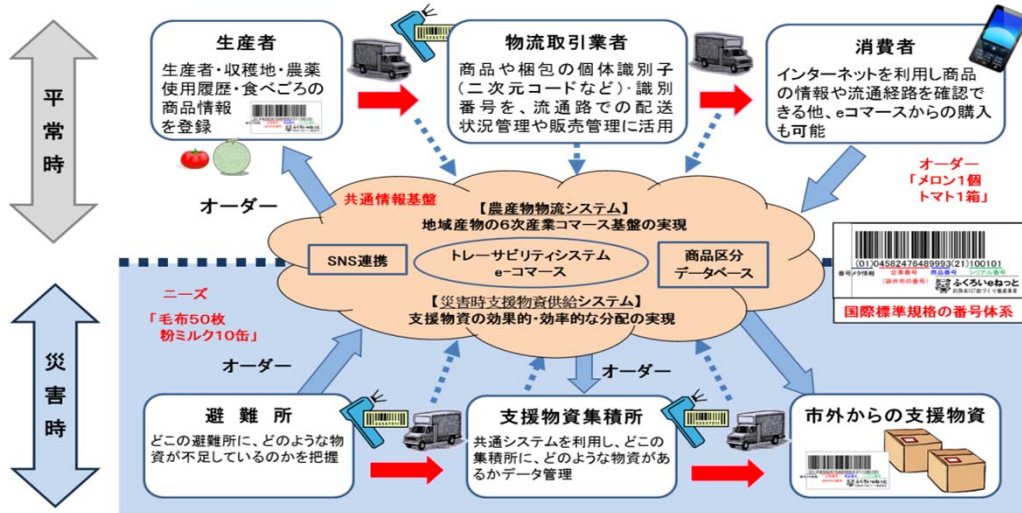
「ふくろいeねっと」を開設、消費者が商品情報(生産者、農薬の使用履歴等)を確認する機能を実装。1取引当たりの売上高が約2.8倍(1,500円→4,272円)に向上。

- **災害時にはECサイトの基盤を活用し、支援物資の効率的・効果的な分配を実現。**

ECサイトの基盤を活用し、避難所からの要求に応じて支援物資を適切に分配する機能を実現。支援物資の仕分け時間を最大26倍効率化(17分→40秒に短縮)。

事業の概要

本事業は、農を活かした街づくりを背景として、地元特産品であるメロンをはじめとする地域産品の直接販売を行うECサイト「ふくろいeねっと」を構築し、地域産品の販路拡大、高付加価値化を図るとともに、同じECサイトの基盤を活用して、災害時には支援物資の効率的・効果的な分配を実現することを目的としています。



<ECサイト「ふくろいeねっと」>

地域産品の直接販売の実現に向けて、一般消費者の発注情報と生産者の出荷情報をマッチングし、配送管理を行うためのECサイト「ふくろいeねっと」を構築しました。

その際、生産者が地域産品に付けられたタグの二次元バーコードに商品情報(生産者や農薬の使用履歴等)を予め登録しておくことで、消費者はインターネットを通じてこれらの情報を閲覧することができ、生産者の見える化による食の安全を実現しています。



ECサイト「ふくろいeねっと」のポータル画面

<ECサイトの基盤を活用した支援物資の供給>

ECサイトの基盤をそのまま活用し、災害時に市外からの支援物資が集積所に集まった際に、どの避難所にどの支援物資を分配したのか迅速に把握し、適切に管理する仕組みを構築しました。

従来までは、システムによる管理を行っていなかったため、リアルタイムの情報把握ができないなどの課題がありました。この仕組みにより、これらも解決することができました。



支援物資集積所における登録作業の図(左)と災害時支援物資供給システムの操作画面(右)

- 実証事業に対する感想を教えてください -

袋井市の特産品であるメロンは、東京をはじめとする都心部では非常に高値で取引されているものの、地元農家が出荷する際の単価は、実にその半分以下になっているという現状があり、何とか販売単価を向上させる方法はないものか、と考えておりました。

そこで、生産者と消費者を直接的に結びつけるECサイトを構築し、消費者が商品の生産段階から手元に届くまでのプロセスを確認できるという付加価値をつけることで、製品価値を上げることが出来るのではないかと考え、本システムを考案しました。

現在は、静岡県とも連携して非常時における支援物資のバーコードの共通化にも取り組んでいるところであり、引き続き本システムの普及展開を推進していきたいと思っております。



情報政策係 係長
鈴木 哲男 氏

- 成功のポイントを教えてください -

今回の事業では、農業分野では生産者のために直接、簡単に利用できるシステムを作り、防災分野では、タブレット端末など身近な機器を使用して使えるシステムを作るなど、行政主体のシステムではなく市民と行政が共同で使えるシステムを構築できたことが大きなポイントと考えます。

平常時には、「ふくろいeねっと」を利用し販路の拡大を図り、災害時には、同じ仕組みを取り入れた支援物資の供給に利用することで災害時に市民の方にも利用可能となり、市民と行政が一体となった取り組みが可能であると考えます。

行政が用意した基盤を市民と行政が知恵と工夫で活用していく仕組み作りが大切であると考えます。



- ✓ 同一基盤システムの平時／災害時利活用
- ✓ 生産者の意見を踏まえたシステム構築

今後の課題

対策・展望

生産者の利益確保に向けて、ECサイトの利用率向上が必要

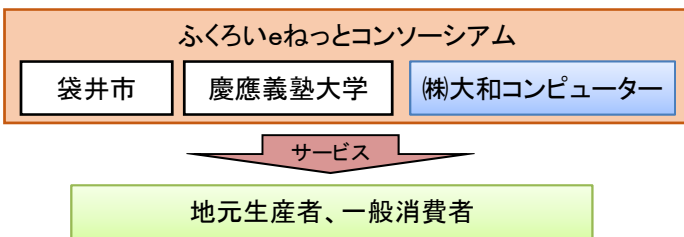
ECサイトの出店店舗数、取り扱い品目を増やし活性化を図る

農作業の効率化に向けて、商品情報の入力の簡素化・簡略化が必要

商品情報データベース及び標準的な入力データフォーマットを整備

事業実施体制

袋井市、企業、大学等で構成される「ふくろいeねっとコンソーシアム」を推進母体として、そのメンバーである(株)大和コンピューターがECサイトの維持・管理を担当し、地元生産者等に対してサービスを提供しています。



導入／運用費用

導入費用 約15百万円／自治体(3自治体同時導入)
 (内訳: システム改修・導入 約 7百万円
 リーダー等の物品購入 約 2百万円
 ライセンス費用等 約 6百万円)

運用費用 約3百万円／年・自治体
 (内訳: ライセンス費用等 約 2百万円／年
 システム保守費 約 1百万円／年)

お問合せ先

静岡県袋井市は、静岡県の南西部に位置し、市内面積の約35%が農用地であり、“農を活かしたまちづくり”を推進しています。

平成22年には「袋井市農業振興ビジョン」を策定し、「担い手の確保」「販売の強化」「市民との協働」をキーワードとして、「農地の適正利用」「地産地消と食育の推進」「地域環境保全活動の推進」等、さまざまな施策を展開しています。



特産品のクラウンメロン

